

食糧パウチャーの配布場所、ハラン市にて。初めはカメラを向けると怖がり、顔を隠していた3人。左から、ユヌス2歳、ムナ5歳、アナス3歳



シリア難民支援を開始しました。ご協力を!!

シリアで内戦が開始されてからすでに五年が経とうとしています。米国などの多国籍軍に加え、ロシアまで空爆に加わり、多くの国の思惑が交差する戦場となり、シリアの人口二、二〇〇万人のうち、約半数が戦争の影響を受け、国内で逃げまどっている人びとの数は六五〇万人。戦火を逃れて周辺各国に滞在しているシリアの難民総数は四一八万人に及びます。今年に入り既に五〇万人以上のシリア難民がトルコからゴムボートでギリシャに渡り、シリア難民を積極的に受け入れているドイツやスウェーデンに向かいました。途中で転覆することもあり、既に数千人が命を落としています。それでもヨーロッパへ辿り着けば現在の生活よりはましであると信じて、毎日数千人がトルコの港町イズミールからギリシャに向かっていきます。

パルシクは二〇一四年夏にパレスチナのガザ地域の戦争被害者への支援を開始したばかりで、身に余ると思いつつ、二〇一五年十月からシリア難民支援を開始しました。パレスチナ事業の過程で、ヨルダンに逃れているシリア難民たちの悲惨な状況、とくに若い難民女性が人身売買に近い状態に置かれていることを知り、やむにやまれぬ思いに駆られたからです。そして、シリアとの国境を閉鎖していないために新たな難民が押し寄せ続けているトルコを活動の場とすることにしました。トルコで登録されているシリア難民の数は二、〇七二、九二〇人。そのうちの四〇％は十一歳以下の子どもです。両親を戦争で失い、兄弟姉妹だけで逃げてきた子どもたちもいます。

パルシクはトルコのシリア国境に近いシャンルウルファ市に事務所を設置し、国境に近いハラン市内外の難民に食糧を買うためのパウチャーあるいは食糧バスケットを配布することから活動を始めました。先の見えない難民生活の中で皆不安に包まれています。家計を助けるために毎日働く多くの子どもたちが、学校に行けるようにすることなど課題は山積です。

ホームページで活動状況をお知らせしています。ぜひ関心をもっていただきたく、そして物心両面でのご支援もよろしく願います。

(この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成を受けて、さらに皆さまからのご寄付で実施しています。)

目次	トルコ シリア難民支援を開始しました。ご協力を!! …… 1	東ティモール コーヒー二次加工工場完成…… 7
	パレスチナ 昨今の情勢と人びとの思い、続く復興の取り組み…… 2	フェアトレード カフェ・ティモール紹介、 ちょっと寄り道♪コーヒー焙煎店…… 7
	スリランカ ムライティブで養殖事業を開始、ジャフナ養殖導入その後…… 3	パルシクからのお知らせ…… 8
	スリランカ リサイクル・サリーの新商品、デニヤバイオガスプラント…… 4	KAIS ゲストハウス、マーケティングボランティア、 会員さん紹介、ご支援のお願い
	マレーシア 環境問題と栄養改善/石巻市北上町 白浜海水浴場の海開き…… 5	
	東ティモール 女性たちの特産品発売、農村での上水整備…… 6	

■ 昨今のパレスチナ情勢と人びとの思い

聖地エルサレムのアルアクサ・モスクにおけるムスリム礼拝者の入域禁止を一つのきっかけとして、九月下旬からこれに抗議するパレスチナ人とイスラエル軍の間で衝突が多発、その動きはパレスチナ全域へ波及しました。十月の死者数はパレスチナ側で六十人、イスラエル側九人、負傷者も一、五〇〇人を超す事態となっています（十月二十六日現在）。

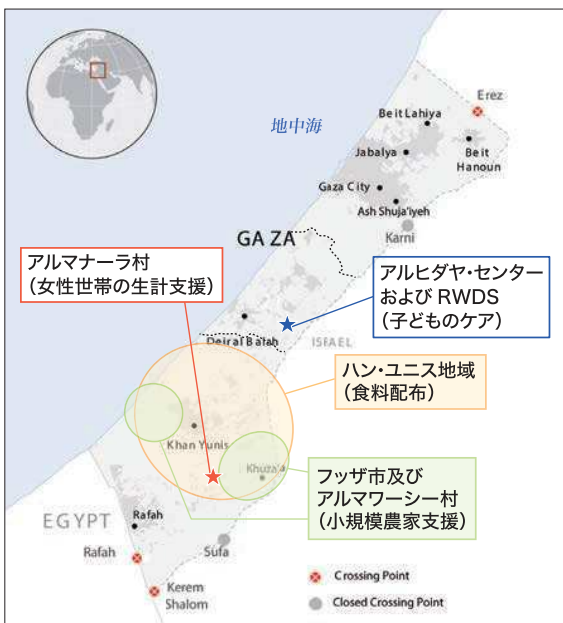
こうした状況について、日本のメディアでは「パレスチナ人によるイスラエル兵襲撃」や「双方による暴力の応酬」として報道されています。しかし、「襲撃犯」とされた中には真相が定かではないものも多く、ポケットに手を入れていたパレスチナ青年が武器を隠し持っていると疑われて射殺されたケースもあります。また、パレスチナ全土に広がる市民のデモは、イスラエル軍の実弾発砲を含む過剰な鎮圧を受け、連日の死者の続出につながっています。

一連の事態の根底には、イスラエルの軍事占領下で、不当な逮捕や移動の制限を含む厳しく制約された日常生活を送るパレスチナの人びとの閉塞感があります。加えて、七月末に起きたイスラエル違法入植地の住民によるパレスチナ一家焼き討ち事件のように、残酷な事件であっても犯人の捜索さえも十分に行われないうい現実、人びとに怒りと恐怖心を与えています。「占領が終わらない限りは本当の問題解決にならない。世界の人びとに自分たちが置かれている状況を知ってほしい」という人びとの訴えは、悲痛なほど真摯なものです。

（廣本）

■ 停戦から一年、続く復興の取り組み

二〇一五年十月十八日、ガザ中部ワディ・アルサルカ地域にあるアルヒダヤ・センターでは子どもたちの元気な声が響いていました。この日、子どもたちは人形劇や絵で気持ちを表現するトレーニングを通して、自分の感情とどう向き合っていけばよいのか学んできました。ワディ・アルサルカ地域は、イスラエルとの国境に近く、昨年のガザ攻撃の際はイスラエルから空爆のみならず、地上侵攻をも受けることになりました。そのため、停戦後も多くの子どもたちが暗闇や大きな音への恐怖を拭えずにいます。また、自分の感情をうまく発散できず、怒りっぽくなったり、集中力に欠けるといった心の問題を抱えています。パルシックはこうした子どもたち一五〇名が安全な場所で楽しみながら心の傷を癒していけるように、エクササイズや野外活動を通じた心理ケアを提供しています。



感情表現のエクササイズ

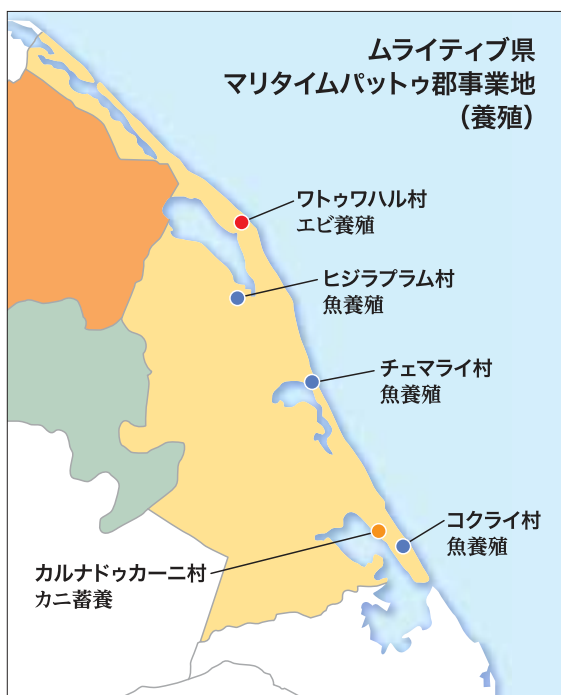
（この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成を受けて、さらに皆さまからのご寄付で実施しています。）

（盛田）

■ムライティブ県で養殖事業を開始

スリランカ北部のムライティブ県は、おいしい天然エビなどが獲れる漁場として有名ですが、違法漁業や乱獲による水産資源の枯渇が懸念されています。住民の半数が漁業に携わるこの地域では、死活問題です。パルシックでは、水産資源の枯渇に備え、「持続可能な漁業」へつなげる養殖事業を開始します。また、この地域の重要な漁業資源であるエビの生態を知らず、海水と淡水が混じりつづけなければそこにエビが生まれると信じている漁民もあり、こうした知識は乱獲につながる恐れもあることから、エビの生態の理解を深めるなど教育的な側面からも支援していきます。

今年二月に日本人専門家を招き、養殖に関する調査を実施しました。その結果に基づき、魚種や養殖候補地を以下の通りに選定しました。



ムライティブの漁協がジャフナ県でカニの畜養を視察

(この事業は、日本 NGO 連携無償資金協力の助成を受けて実施しています。)

(飯田 彰)

②カニの蓄養・コクライラグーン

③魚の放流養殖・タンニムリップタンク、チェマライ村およびコクライ村の淡水池

先日、上記の候補地からカニの蓄養を予定しているカルナドゥカーニ村の漁協組合員二十五名と一緒にジャフナ県にあるカニ蓄養の事業地を見学してきました。海中に沈められているケージを見た後、収入向上などの利点から盗難対策まで、現地の漁協の皆さんから話を聞くことが出来ました。

カルナドゥカーニ村の漁協長ジョセフさんは、「実際にカニの蓄養を見て、我々の村で行うイメージがはっきりした。また、盗難のリスク対策もしっかりしていく。ぜひ成功させて、村の発展に貢献していきたい」と話していました。このような声を忘れずに、パルシックでは各候補地の養殖準備を進めています。

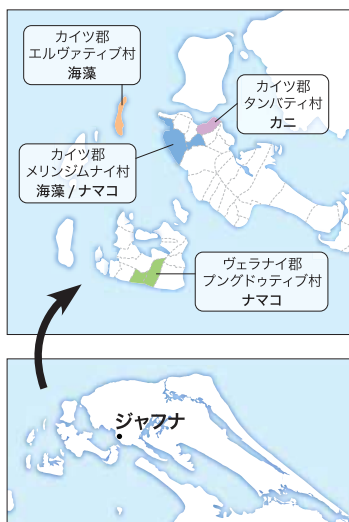
■ジャフナ県での養殖導入事業

二〇一三年十月からジャフナ県で養殖の導入事業を実施しています。地域に合った養殖魚種と養殖法についての調査を一年かけて行い、導入する村を決めたものの、二〇一四年末から二〇一五年初めの数ヶ月は、大統領選挙の影響で行政機関の業務が止まってしまい、養殖機材の設置許可を得るのに半年以上待つことになりました。四月末ようやく機材設置の許可が下り、カニの蓄養、ナマコの養殖、海藻養殖を本格的に開始しました。カニの蓄養を始めたタンバーティ村では、カニをケージに入れて大きくした後には販売することで、漁師さんの収入が増え始めています。一方で、ナマコ養殖では予定していた政府機関からナマコの稚魚が買えず新たな購入先を探すのに苦労したり、海藻養殖では海藻を扱ったことがないスリランカ北部の漁民に養殖の意義がなかなか伝わらなかつたりと、養殖担当スタッフは日々大変なことに直面していますが、漁獲量の減少を耳にするたびにスリランカ北部に「育てる漁業」を導入する必要性を痛感し、漁協や漁師さんとの対話を続けています。

(この事業は、三井物産環境基金の助成を受けて実施しています。)

(アジャクタ)

ジャフナ県の養殖事業地



■リサイクル・サリー ムライティブで新商品を展開

二〇一五年六月から、ジャフナに加え、ムライティブの三村でも女性グループを組織して、各村で週に一回、縫製技術の研修を続けています。既に三年弱の経験があるジャフナの女性たちに負けず劣らず、新しいムライティブの女性たちも活動に積極的です。コクトルワイ村の女性たちは、細かい手作業の刺繍が丁寧で、彼女たち自身も楽しく取り組んでおり、刺繍入りのクッションカバーは、早速イベントに出すたびにすぐに売れる人気商品になりました。刺繍をし過ぎて指が痛い、夜は暗いから手元が良く見えない、もっと鮮やかな色の糸で縫いたい、等々、研修中の女性たちのおしゃべりは止まりません。次から次へと「先生、こっちは見て!」「私の分のサリーが足りない!」と声を上げる女性たちの活気に、縫製の先生やスタッフが圧倒されてしまうこともあるほど。多くの住民が、二〇年以上に及ぶ避難生活から約四年前に帰還したコクトルワイ村。当時は草むらの中に仮で建てた家が点在する殺伐とした風景だった村も、今はレンガづくりの家が建ち並び、村らしい暮らしが戻りつつあります。

七月からは、コロンボで毎週土曜日に開かれる、有機野菜や手工芸品を販売す



上：毎回活気があるコクトルワイでの研修
左：グッドマーケットでの販売風景

るイベント「グッドマーケット」に不定期で参加し、事業のブランドである「Sari Connection」の商品をコロンボの富裕層や外国人の方々を紹介する機会を設けています。ここでの販売も安定しつつあり、着なくなったサリーを寄付として持って来てくださる方も増えてきました。次の課題は、女性たちに品質管理の重要性を伝え、商品の価値を上げて国内での市場をさらに広げること。何事にも明るく前向きな女性たちと取り組む課題は、長い道のりであると同時に、とても楽しいものでもあります。

(伊藤 文)

(この事業は、JICA草の根技術協力事業の助成を受けて、さらに皆さまからの寄付で実施しています。)

“Sari Connection”は、facebook でも記事を更新しています。ぜひサイトでの応援もよろしくお願いたします。

www.facebook.com/SariConnection

■バイオガスプラントの建設完了

デニヤヤでは、昨年クラウドファンディングを通して大勢の方にご協力いただき建設したコンポストセンターをより有効に活用するために、バイオガスプラントを併設しました。コンポストセンターにいる牛の糞尿を利用してバイオガスを作り、副産物のメタン発酵消化液を液肥として有機紅茶圃場に施肥するのが目的です(バイオガス自体は牛舎のランプの燃料としたり、絞ったミルクを温めたり、十二月・一月の寒い時期の牛舎の暖房として使ったりする予定です)。

実は、このバイオガスプラントの建設は当初七月に建設完了だったのですが、十月初めによく建設となりました。遅れた理由は、プラント建設には国からトレーニングを受けて認証を取得している技術者に頼む必要があり、技術者との調整に時間がかかってしまったからです。建設自体は、夜を徹しての作業で一泊二日で完了です(穴を掘ったり、牛舎から糞尿をプラントに流し入れるパイプをつないだりなどの作業は含みません)。技術者の助手として、村の人びとにも手伝ってもらいました。

まだ細かい作業が残っていますが、本格的な稼働開始後は、液肥のサンプルを国立紅茶研究所に送って成分分析をして

最後の仕上げをしている技術者のワサンタさん



煉瓦を積み上げてバイオガスメタン発酵槽を作っていく(奥が技術者のワサンタさん、手前は手伝ってくれた村の人)



もらい、この地域での施肥に適切な方法をアドバイザーしてもらいます。紅茶の有機転換事業は二〇一一年の開始から四年を経えますが、未だに有機圃場の茶葉の生産量が非有機栽培に比べて低いことが悩みですが、液肥には即効性を期待できますので、コンポストと併用して生産性の向上につなげていきます。

(高橋 知里)

(この事業は、ゆうちょ財団および日本国際協力財団の助成を受けて、さらに皆さまからの寄付で実施しています。)

■マレーシア ペナン 環境問題と栄養改善への取り組み

マレーシアの沿岸漁民組織 P I F W A (ペナン沿岸漁民福利協会: Penang Inshore Fishermen Welfare Association)、女性グループ P I F W A N I T A (P I F W A の女性たち)の事務所はペナン島からマレー半島側に車で約一時間。第二ペナン大橋を渡りながら、ペナンの空の様子が気になります。フランス・パリで国連気候変動枠組条約第二十一回締約国会議(C O P 21)の準備会議が開かれたのを機に、インドネシアの乱開発による煙害のことが日本でも報道されましたが、マレーシアでも煙害^{*}ヘイズが深刻です。広範囲で起る煙害は逃げ場がなく、健康被害はもちろんですが人びとの外での活動を鈍くします。P I F W A は、身近な海の汚染やマングローブの損失について、モニタリングを行って原因を見つけ、政府や工場に働きかけて解決をしてみました。「グローバルな環境問題には植林活動を通じて子どもたちに環境を守る大切さを伝えていくしかないのだ」と代表のイリアスさんは言っています。

八月には一か月の英語の夏季研修でペナンに滞在していた清泉女子大学の学生十名が、村でのホームステイと植林を経験しました。雨の音で眠れなかったり、よそ様のお家^{*}にお邪魔して緊張した

りしたそうですが、環境を守る活動ができて嬉しかったとのこと。

P I F W A N I T A が取り組むのは、栄養問題です。栄養調査の手始めに、P I F W A N I T A のメンバーの身長体重の測定や食生活習慣の聞き取りをしました。貧困状態が改善されても、安価で接取のしやすい食糧、例えばマレーシアではパーム油と甘い飲み物ですが、それが村人たち、特に女性たちの体重過多を招いています。食事を提供する役割を担っている女性たちが、意識的に栄養バランスの良い調理方法を学び、家族やコミュニティの人たちに提供できるようにしたいと考えています。(大塚 照代)

(P I F W A の事業はイオン環境基金、りそなアジア・オセアニア財団、三井住友銀行ボランティア基金の助成を受けて、P I F W A N I T A の事業は味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの助成を受けて、さらに皆さまのご寄付で実施しています。)



植林を体験する清泉女子大学の学生さん

*インドネシア・スマトラ島などにおける大規模な野焼きや森林火災により生じた煙が、南西季節風(モンスーン)により、マレー半島やシンガポールに流されることにより生じる煙害を指す。例年、乾季に当たる5月～10月に観測される。(外務省ホームページより)

■白浜海水浴場 二日間だけの海開き

石巻市北上町、震災後、閉鎖されたままの白浜海水浴場で、今年で三回目となる「二日間だけの海開き」が開催されました。今年は八月八日～九日の二日間で、海上運動会が同時企画されて来場者数八〇〇人を超える一大イベントとなりました。

当日は、悪天候で朝から雨模様。準備をする住民たちに溜息が漏れる中、予想に反して次々とやって来る人で、駐車場は満車の状態に。しばらくすると天気も持ち直し、運動会への参加希望者が後を絶たず嬉しい悲鳴が起りました。海上運動会では、海の上にゴザを浮かべて走

「海上ゴザ走り」は、大人たちも大盛り上がり



る海上ゴザ走りや、ビーチバレーなど五種目を実施。中でもヌルヌル相撲は、出場者のコミカルな動きに会場中から笑いが沸き起こりました。最終的に、運動会へは総勢二〇〇名以上が参加しました。今年は、毎年主催していた住民有志「白浜海水浴場再開実行協議会」に加え、地域づくり住民団体「きたかみインボルブ」との共同開催となりました。彼らは全員、普段はそれぞれの職業を持ち、その傍らで空いた時間を利用して市民活動をしています。平日の日に動きが取れないのが常なので、そんな中で準備をバックアップするのがここでの北上復興応援隊の役割です。今年は、地元の中

学生も計画・準備の段階から参加し、何度も海で試走をしたり、競技の小道具を作ったりと大活躍しました。準備は、失敗を笑いあったり、互いに本気で意見し合いながらの作業。成功した時の感動を子どもたちと一緒に体験し、また来年の話にまで会話が膨らむ。海開きそのものより、地域にとっては深い意味のあるものであったと思います。

(復興応援隊 佐藤 尚美)

(復興応援隊事業は、宮城県から受託して実施しています。)

女性たちが手掛けた各地の特産品、デシリで販売中



「Lesu(木臼)」でピーナッツバターを作る
ボボナロ県 APAMの女性たち



ハチミツ

内容量：310ml
生産量：70本/月



アイナロ県の女性グループ HBO で発酵を抑えるため糖度を80%まで上げることに成功しましたが、この工程に2週間という時間がかかり、生産ベースを上げることが課題です。今年はハチミツ自体が少なく、生産目標数量を達成することができませんでした。

ハーブティー

内容量：30g
生産量：300袋/月



アイナロ県の女性グループ HBO が、日本でも販売しているツボクサ&ミント、アボカド&ライム、バジル、レモングラス、月桃に続いて、ハイビスカスの栽培、加工にも取り組んでいます。

他にもバウカウ県の女性グループ OCA のバナナチップス(内容量：200g、生産量：2,000袋/月)が好評を得ています。コバリマ県の Fitun Naroman のふりかけは学校給食への導入を目指して、栄養成分分析をおこなっています。

バージン

ココナッツオイル

内容量：310ml
生産量：120本/月



リキサ県の女性グループ Bermuttuh のリーダー、ミルタさんの協力を得て、品質改善に取り組んできました。新鮮なヤシの実の選別、絞ったココナッツミルクを油分と水分に分離させる過程での温度と時間管理が決め手です。

ピーナッツバター

内容量：210ml
生産量：100本/月



ピーナッツ名産地のバウカウ県とボボナロ県の計5グループが生産しています。東ティモールの家庭に欠かせない調理器具、Lesu(木臼)を使って、女性たちが丁寧にすりつぶした手作り感満載のピーナッツバターです。

「農村女性の生計向上事業」は開始から丸二年が経ちました。六県、二十の女性グループとともに特産品の選定や品質改善に取り組み、商品の一部が首都デリリのスーパーマーケット五店舗で安定した販売数を得ています。今後はこれら商品の輸送態勢を確立させ、まとまった生産量を確保していくことが課題です。(伊藤 淳子)

(この事業は、JICA 草の根技術協力事業の助成を受けて、さらに皆さまからのご寄付で実施しています。)

農村での水整備事業がはじまりました



水源の水量を調査するスタッフ

(この事業は、日本 NGO 連携無償資金協力の助成を受けて、さらに皆さまからのご寄付で実施しています。)

事業の開始とともに、現在 GPS を使った水源調査を進めています。
(高橋 茂人)

マウベシの季節は、十一月から七月頃まで続く雨期と、残り三ヶ月ほどの乾期に分かれます。乾期には熱帯×高原の強烈な太陽が、あつという間に大地を乾燥させます。森林が減り、地肌がむき出しになった地域は、保水力を失い、生活用水の確保が難しくなります。また、集中豪雨が発生する雨期には、水源が土砂の混じった汚れた水になってしまいます。

昨年まで実施していた農業事業を通じて見えたのは、農業用水の確保以前に、生活用水さえ事欠く現実でした。そのためパルシックは、三年計画でマウベシ郡内の十一集落に上水を整備する事業を実施します。事業では、乾期にも十分な水量がある水源を確定し、集落まで配管します。水源では取水槽を設置して上水を確保するとともに、水源周辺での植林を進め、水資源枯渇を防ぎます。配管経路には、土砂崩れの危険性が高い場所を中心に土壌を安定させる草を植えます。

【コーヒー】二次加工場が完成しました！

二〇一五年八月二十七日、首都デシリでコーヒー二次加工場の開所式をおこないました。加工場内には不純物の除去から脱殻、比重選別、サイズ選別が一つのラインでできる機械一式を設置し、毎時一トンのコーヒー豆を処理することができます。二〇〇二年にコーヒー生産者支援を始めてから十三年の歳月を経て、ようやく高品質のコーヒーを出荷するために欠かせない設備を整えることができました。開所式には環境通産省副大臣や農水省商品作物&コーヒー局長、在東ティモール日本大使やJICA東ティモール事務所長など、これまでお世話になった公職の方々もご列席くださり、お祝いと励ましの言葉をいただきました。また日本からは大事なお客様にご参加をいただきました。このような晴れの日を、コ

ヒーの品質向上や組合運営にまつわる試行錯誤を共にし、苦勞と喜びを共にしてきた生産者組合のみなさんやNGOの仲間たち、市場となって支えてくださったというお客様と一緒に祝うことができ、わたしたちにとって新たな節目となりました。

今年にはコーヒーが不作で、国際市場価格も下落傾向にあり、生産者にとっては経済的に苦しい年です。十月に入り、コハル (KOHAR : Kooperativa Hamrik Ho Ain Rasik // 自立発展協同組合)、コカマウ (COCAMAU : Cooperativa Agricultura Moris Foun Unidade Kafe Nain Maubisse // マウベシ・コーヒー生産者協同組合) から順次コーヒー豆が新加工場に入荷しています。生産者のみなさんの大切なコーヒーを、新加工場の性能を確認しつつ丁寧に加工していきたいと思えます。

(伊藤 淳子)

(この事業は、Secretariat of Pacific Communityの助成を受けて、さらに皆さまからの寄付で実施しています。)



上：開所式では機械のデモンストラーションも
下：コーヒー畑再生のため、昨年台切りしたコーヒーの木

ますます
美味しくなった
カフェ・ティモール！

昨年のコーヒーシーズンが始まる前に「品質向上キャンペーン」を現地で行いました。

現地のスタッフは畑を回り、農民たちとチェリーの選別・加工方法について改めて確認しました。同時に日本からも営業を通じて気が付いたこと、お客さんの反応、他国のコーヒーや市場の動向を現地ヘフィードバックして、連携して取り組みました。

その結果、二〇一四年度のコーヒー生産はとてきれいな状態で届き、味も雑

味がなく、「カフェ・ティモール」が本来持っている美味しさをやわらかな苦味口あたり・甘み、すっきりした後味が引き出されたものでした。お客さんからも「美味しくなった」「見た目がきれい」という声を多くいただきました。

二〇一五年度産は、自前の二次加工場で加工する、はじめてのコーヒーです。ますます美味しくなったカフェ・ティモールの生豆は、来年早々の販売開始を予定しています。どうぞお楽しみに！

(ロバーツ 圭子)



Aoyagi Coffee Factory



愛知県日進市で自家焙煎コーヒー販売をされている Aoyagi Coffee Factory さん。2014年4月に創業し、主にイベント出展や小売店でのプロモーションなどを通じて、地域に密着してサステイナブルなコーヒーを精力的に広めていらっしゃいます。

2015年9月、隣接する名古屋市がついに「フェアトレードタウン」となり、青柳さんもこの運動に関わってこられました。そのひとつとして、名古屋の高校生とのコラボレーションでフェアトレードのドリップコーヒーを商品化されました。ちなみに、このコーヒーの原料に、パルシクの東ティモール産生豆が使われています。

ワクワクする街のコーヒー焙煎屋さん、今後のご活躍に期待です！



店主の青柳さん。FOODEXにて

Aoyagi Coffee Factory
〒470-0136
愛知県日進市竹の山5-3003
email: info@timor.jp
tel&fax: 0561-72-5601
http://www.timor.jp

パルシック からの お知らせ

ワンバック収穫祭に参加してきました!



平飼の鶏小屋

『三里塚ワンバック野菜』は千葉県成田でおいしい無農薬・有機野菜を共同出荷する生産者グループです。11月1日(日)。青空の下、年に一度のワンバック収穫祭が開催されました。普段は離れている生産者と消費者が交流できる一日です。家族連れも多く、子どもたちが土まみれになりながら大根やさつまいもを引っっこ抜いていました。そば打ち体験、太鼓のワークショップも用意されており、なかでも卵とり体験は大人気! 「有精卵は命だから大事に扱ってください」と説明を受け、大人も子どもも平飼いの鶏小屋で卵採りを体験しました。お昼にはバーベキュー、鴨汁に玄麦うどん、蒸し鶏などが参加者に振る舞われました。(鈴木 飛鳥)

淡路町マルシェにお立ち寄りください

東京事務所併設の『淡路町マルシェ』で、フェアトレード商品と有機野菜を販売しています。ぜひお立ち寄りください!

住所: 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F
TEL: 03-3253-8990
営業時間: 月~金 10時~19時頃



KAIS (カイス) ゲストハウス 好評営業中

2014年夏、ジャフナにオープンしたKAISゲストハウスは1周年を迎えました。8、9月はジャフナ最大のヒンドゥー教寺院、ナルー寺院のお祭があり、ジャフナタウンが最も盛り上がる季節。国内外からのお客様の予約で連日満室が続き、スタッフはみな大忙しでした。ホテル予約サイト、booking.comでもご好評をいただいています。
<http://www.booking.com/hotel/lk/kais-guest-house.html>



ゲストハウスの正面

ジャフナへ
お待ちしております!



KAISゲストハウス
No 69, Colombagam road,
Jaffna, 40000, Sri Lanka

レストランになっている2階のテラス。
お料理に定評あり!



パルシック 会員って どんな人?



大森 武 (おおもりたけし) さん

横浜在住、私立高校の数学教師。2014年よりパルシック会員。2013年石巻復興支援ツアー、2015年東ティモールコーヒーツアーに参加。

Q. パルシックに関わるようになったきっかけは?

私は姉妹団体パルクの会員でもありますので、地味なパルクと派手なパルシックの両方に関わって NGO の存在意義を考えたいと思ったからです。

Q. 東ティモールツアーに参加していかがでしたか?

コーヒーや旅行オタク、支援マニアなど(尊敬の念、親愛の情を込めて!)、いろんな方面で個性を発揮している人たちと出会えたことが一番良かったことです。

Q. これからのパルシックに何を期待しますか?

ツアー参加者の一人が言いました。「ツアー参加者も会員もみんながそれぞれ好き勝手にパルシックと関われば、結果として世界の誰かのためになる」。これからはそういう組織であってほしい。

会員になってパルシックを支えてください

パルシックの活動に共感し、継続的に活動に参加していただける会員・賛助会員を募集しています。年2回のニュースレターや活動報告書・計画書の送付、活動報告会やイベントのご案内などを差し上げるほか、会員メーリングリストにご参加いただけます。

会費/会員(個人) 10,000円 賛助会員(団体) 20,000円

皆さまのご支援によって支えられています

● 郵便局からの寄付

郵便振替口座: 00140-8-536957

口座名: パルシック

● 銀行からの寄付

三井住友銀行 神田支店(普) 2384136

口座名義: 特定非営利活動法人パルシック

*銀行からお振り込みの際は、ご住所とお名前をご一報ください。

マーケティングボランティアチーム、活動中!

2015年度のマーケティングボランティアチームは、総勢約20名で活動しています。コーヒー担当、販売担当、SNS担当、映像担当など、みなさんの得意分野に分かれて大活躍中です! このたび、チームのtwitterアカウントを作りました。フォローして応援してください!

[@parcic0102](https://twitter.com/parcic0102)



ボランティア/プロボノ募集

東京事務所での資料発送作業をお手伝いして下さるボランティアさんと、ITサポートや商品写真撮影、チラシ作りなどにご協力いただけるプロボノさんを募集しております。参加ご希望の方は、お気軽に東京事務局(担当: 中村)までお問い合わせください。

住所、メールアドレス等に変更はございませんか?

ここ数年で新しい住所へお引っ越しした、メールアドレスが変わった、苗字が変わった……という方は、パルシックから民際協力ニュース・メールマガジン・イベントのご案内などの最新情報を正確にお届けするために、東京事務局までご一報ください!

民際協力ニュース VOL.27 2015年12月

PARCIC

特定非営利活動法人 **パルシック**

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F

電話: 03-3253-8990 Fax: 03-6206-8906

メール: office@parcic.org Web: <http://www.parcic.org>

オンラインショップ ParMarche (パルマルシェ)
<http://parmarche.com>

twitter

東京事務所: http://twitter.com/parcic_office

facebook

<http://www.facebook.com/parcic>